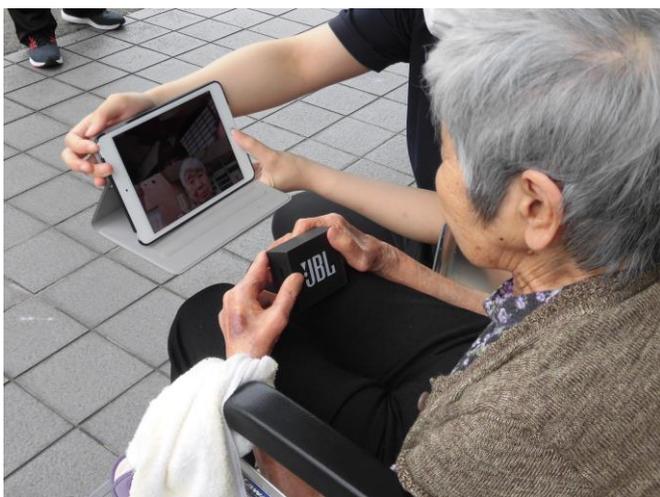


令和2年度は、新型コロナウイルスの発症に始まり、新型コロナウイルスに終わった、と言っても過言ではない1年でした。今まで平穩に過ごしてきた生活環境が、当たり前でなくなってきたことに対して、不安と戸惑いを多くの方々が感じてこられたことと思います。当法人においても、地域における、地域のための、地域に開かれた「生活必需施設」を目途として、施設づくりを行ってきましたが、地域から遮断され、日々感染症の恐怖と向き合いながら過ごしてきた日々は、施設のご利用者様及び職員にとっては、苦しく、とてもつらい日々でもありました。日常の生活のみならず、予定をしていた施設行事や家族会との合同イベント、面会等も見合わせることに至ったことは、ご利用者様やご家族様にとっても大きなストレスだったと感じています。但し、法人の産業医の先生の助言をいただきながら、できうる範囲の中での面会を実現できるよう取り組みも行ってきました。オンライン形式による面会もその中の対策の一つとして行ってきました。遠方におられるご家族様が、直接手を触れることはできなかつたにせよ、お元気な姿を画面越しに見られたことは、少なからずとも満足していただけたと思っています。合計17回のオンライン面会を行うことができ、今後ご希望に応じて、こうした機会を提供できるように努めていきたいと考えています。

### オンライン形式による面会の風景



感染症の発症ということで市販のマスクが不足し、メーカーからの納品も滞る事態になり職員の使用するマスクの確保にも支障きたす折、JAあまくさ婦人部様をはじめとして、熊本県及び業者関係の方々、ご利用者のご家族様、職員のご家族様等、多くの皆様から提供をいただき、ご支援をいただいたことに対しても厚くお礼を申し上げます。またマスクのみならず感染症を予防するための衛生管理に関する諸製品の提供も、数多くの方々から提供していただいたことに対しましても深く感謝を申し上げます。こうした心温まるご支援に報いるためにも、なお一層、その期待に背かないように努めていく所存であります。

## JA あまくさ婦人部様からのマスクの提供



## 二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金について

新型コロナウイルス感染症の予防対策の一環として、当施設を利用する高齢者の方のウイルス感染へのリスクを低減し、不安感の解消につなげる。そのための換気設備を更新することで空調設備への負荷を下げ、CO<sub>2</sub>の排出量を削減するとともに、高齢者の方々へ、より快適に過ごしていただく。不特定多数が利用する共有部分及び扉がなく共有部分へつながる通路へ、高機能換気扉を導入することとしました。設置エリアとしては、従来型特別養護老人ホームとデイサービスセンターたんぽぽの2カ所を設け、常時大型換気扇のフル活動により24時間の喚起が可能となっており、安心安全な環境整備に努めることができました。

## 新しく設置した大型換気扇等





## 介護ロボットの導入について

介護現場において、介護ロボットの導入は、介護従事者の身体的負担軽減や介護業務の効率化を可能とするものであります。平成28年度と平成29年度には「眠りスキャン」を、平成30年度には「電動ベッド」の導入を行っています。介護従事者が継続して就労するための環境整備に有効であることから、本年においても熊本県介護職員勤務環境改善支援事業費を活用し、移乗サポートロボットである「Hu g T 1 (T1-02)」の導入を行いました。本機器は立ち上がりサポートによって、ご利用者様にとっては自ら立てる喜びにつながり、スタッフにとっては移乗時の腰痛軽減につながります。ただし、使用する際には、体形が個人で異なるため、スタート位置（高さ）を調整する必要がある。また、重心の移動を考えたアームの動きではあるが、アームの動きだけで身体を動かすため、結果として両肩への負荷が過剰に高まる場合があるので注意すべきところであります。

## 介護ロボット「Hu g T 1 (T1-02)」



## 施設内防犯カメラの導入について

従前より新聞やテレビ等において、施設内での転倒等の事故が発生した場合の説明責任が問われる事案が多く発生しています。当施設も過去においてこうした事案が発生した際に、事実が確認できずに、十分な説明責任が果たすことができなかつた状況が見受けられたことから、従来型ショートステイ居室前、従来型特養東側廊下、地域密着型フロア等、合計6カ所に防犯カメラの設置を行いました。

画像のみの確認ができる機器の内容となっており、本機器の専用パソコンを従来型特養のパソコン室に設置し、事故等が生じた際には、複数名以上の立会いの下での確認を義務付ける等、使用に関してのルールを設けて、安全対策に努めてきました。その結果、設置直後に3件の事故が発生し、いずれも施設側の過失が認められず、ご利用者様のご家族様への説明を行う際の、貴重な資料となりました。今後は、ビデオの画像を検証し、事故等の再発防止に役立たせていきたいと考えています。

## 施設内防犯カメラと専用パソコン



## 天草管内施設における研修会場の提供（喀痰吸引研修）

喀痰吸引等研修とは、「たんの吸引（口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部）」と「経管栄養（胃ろう、腸ろう、経鼻経管栄養）」を行える介護職員等を養成するための研修です。基本研修と実地研修に分かれていて、両方終了することで、医師の指示や看護師との連携のもと「たんの吸引」「経管栄養」が実施できるようになります。例年は熊本県が主催していましたが、近年は民間の事業所又は熊本県の老人福祉施設協議会が主催しておこなわれました。しかし、コロナ禍の中では、それぞれの県内圏域で分割しての開催となっております。天草圏域においては当施設に対して会場の提供の依頼があり、地域交流室を提供し、本研修会が開催されました。

① 令和2年2月18日～4月14日 座学及び実習

※天草内の施設より8名の参加がありました。



② 令和3年1月29日～3月26日まではオンライン形式での研修  
4月1日～2日までは当施設の地域交流室において実地研修が開催され、天草地域から10名の参加をいただきました。

### オンライン形式での研修風景



### 天草准看護学校生徒に対しての修学資金支援について

本年度は職員の人材確保を目的として、天草准看護学校生徒1名に対して法人の修学資金を支援して資格取得のためのサポートを行っています。1年後には卒業して、当法人の看護職員として勤務していただくこととなり、人材を採用していく視点から、人を育て、成長させていくことにも力点を置き、マンパワーの養成にも努めていきます。過去には国際介護福祉学科の生徒への修学資金の提供を行ってきた実績がありますが、今後は県内学生を対象とした支援についても検討していきたいと考えています。